

各診療科 関連病院一覧

診療科項目

- ㊦循環器内科
- ㊦呼吸器・膠原病内科
- ㊦消化器内科
- ㊦腎臓内科
- ㊦内分泌・代謝内科
- ㊦血液内科
- ㊦神経内科

- ㊦心臓血管外科
- ㊦食道・乳腺甲状腺外科
- ㊦泌尿器科
- ㊦消化器・移植外科
- ㊦小児外科・小児内視鏡外科
- ㊦眼科
- ㊦耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- ㊦整形外科

- ㊦皮膚科
- ㊦形成外科・美容外科
- ㊦脳神経外科
- ㊦麻酔科
- ㊦精神科/心身症科
- ㊦小児科
- ㊦産婦人科
- ㊦放射線科
- ㊦病理部

中国

- 岡山県
- 倉敷中央病院 ㊦
- 三宅病院 ㊦
- 広島県
- ビハラ花の里病院 ㊦
- 浜脇整形外科病院 ㊦

九州・沖縄

- 福岡県
- 池友会小文字病院 ㊦
- 佐賀県
- 藤崎病院 ㊦
- 大分県
- 大分中村病院 ㊦
- 宮崎県
- プレストピアなんば病院 ㊦①②
- 沖縄県
- 浦添総合病院 ①

四国

- 徳島県
- 徳島通信病院 ㊦②③④⑤⑥
- 徳島県立中央病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 徳島市民病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 徳島厚生病院 ㊦
- 赤沢病院 ㊦
- 伊予病院 ㊦②③④
- 福山病院 ㊦①②
- 沖の洲病院 ㊦①
- 亀井病院 ㊦①
- 川島病院 ㊦㊧①②
- 木下病院 ①
- 協立病院 ㊦①②③
- 近藤内科病院 ㊦①②
- 佐藤病院 ①
- 城西病院 ㊦
- 城南病院 ㊦
- 鈴江病院 ①㊦
- 田岡病院 ㊦①②③
- 田蔭病院 ㊦㊧㊨㊩㊪
- 寺沢病院 ㊦①
- 徳島県総合健診センター ㊦㊧②③
- 日比野病院 ㊦
- 水の都脳神経外科病院 ①②
- リハビリテーション大神子病院 ㊦
- 田村病院 ①

- 徳島県立三好病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 徳島赤十字ひのみね総合療育センター ㊦㊧
- 三好市国民健康保険市立三野病院 ㊦①②
- 阿波病院 ㊦㊧①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 麻植協同病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 川島循環器クリニック ㊦㊧
- 川島会川島病院 ㊦㊧㊨㊩
- 健康保険専門病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 藍里病院 ㊦
- 秋田病院 ㊦
- 福次整形外科病院 ㊦㊧
- 折野病院 ㊦
- 兼松病院 ①㊦
- 鶴島病院 ㊦㊧①
- きたしま田岡病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 手東病院 ㊦①②
- 独立行政法人国立病院機構徳島病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 独立行政法人国立病院機構徳島徳島病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 徳島市立白鳥病院 ㊦㊧
- さぬき市民病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 高松市民病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 三豊市立西香川病院 ㊦
- ホウエツ病院 ㊦㊧㊨
- 三加茂中村病院 ㊦
- 三野田中病院 ㊦
- 芳川病院 ①
- 吉野川病院 ㊦㊧
- 玉真病院 ㊦①

- 徳島県立海部病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 徳島赤十字ひのみね総合療育センター ㊦㊧
- 海陽町国民健康保険海南病院 ㊦
- 海陽町穴隈診療所 ㊦
- 国民健康保険勝浦病院 ㊦①②③
- 町立上那賀病院 ㊦
- 美波町国民健康保険由岐病院 ㊦①②③
- 徳島赤十字病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 阿南共栄病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 阿南医師会中央病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 江藤病院 ㊦
- 小松島病院 ㊦㊧
- 福心館病院 ㊦㊧

- 独立行政法人国立病院機構香川小児病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 独立行政法人国立病院機構善通寺病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 府田病院 ㊦㊧
- NTT高松病院 ㊦
- 愛媛県
- 愛媛県立中央病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯
- 愛媛県立新居浜病院 ①②
- 愛媛県立三島病院 ㊦
- 松山赤十字病院 ㊦①②
- 公立学校共済組合 四国中央病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 石川病院 ㊦
- 真栄第一病院 ㊦
- 独立行政法人国立病院機構四国がんセンター ㊦
- NTT松山病院 ㊦
- 愛媛県立治病院 ㊦
- 高知県
- 四万十市立市民病院 ㊦①②
- 土佐市立土佐市民病院 ①②
- 高知医療センター ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 高知赤十字病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- JA高知病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 高知鎮川病院 ㊦
- 高知高須病院 ㊦
- 独立行政法人国立病院機構高知病院 ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- 室戸病院 ㊦

News 1

お給料が上がります

医員の皆さんのお給料が上がります。3年目以降の専門医研修に入った皆さんの処遇改善として日給が大幅にアップされました。3年目の医員の方では年収ベースで約70万円、4～5年目では約90万円、6年目の方では約120万円の増額となります。7年目以降の方も増額され、学年によって違いはありますが、平均では約90万円の増額です。今年の8月分から適応され、9月分の支給額から反映されますので、楽しみにしてください。まだまだ十分ではないかも知れませんが、今後とも頑張ってください。1つ目の発奮材料になればと思います。

News 2

西病棟の建設が進んでいます

西病棟新築工事は、平成21年8月竣工に向けて順調に進んでおり、現在2階にモテルルーム（特別病室と4床室の各1室）が完成しました。新病棟には、入院生活を快適に過ごしていただくための特別病室や展望レストランの設置、また学会や研修会に利用できる100名収容可能な多目的ホールの設置も予定されています。開院時期は平成21年10月中旬を予定しています。



News 3

『新立体駐車場』完成！利用開始！

病院正面玄関前に建設中の新立体駐車場が完成したことに伴い、オープンセレモニーが9月5日に行われ、9月8日から利用できるようになりました。正面玄関前駐車場はこれまで146台収容していましたが、駐車場不足を訴える患者さんが増加したことから立体化することになりました。新立体駐車場は2階3段式で368台収容することができ、1・2階を患者さんや見舞客、3階を職員専用としています。この立体駐車場の完成により駐車場不足の解消につながるかと期待されています。



医員募集

平成21年度の医員募集情報

徳島大学病院では、下記の要領で、平成21年度の医員(3年目以降の専門医研修者を含む)を募集します。

平成21年度の医員募集の概要	条件	医師免許取得後2年以上臨床研修を行った者または、平成21年3月までに卒業臨床研修を修了(予定)している者。
募集人数	170名(ただし、専門医研修希望者はすべて受け入れず)。	
処遇	国立大学法人徳島大学有期雇用職員就業規則による。	
募集のための書類	希望する当該診療科または徳島大学病院卒業臨床研修センターにお問い合わせください。	
募集の締め切り	平成21年1月下旬 ※詳細は卒業臨床研修センターにお問い合わせください。	
問い合わせ先	採用希望される場合は、随時、採用希望される当該診療科の担当者、または卒業臨床研修センターから募集情報をお知らせしますので、電話、FAX、E-mail等でお願いします。	

編集後記

今回のニュースレターでは、研修医と学生の座談会を行いました。学生からの卒業臨床研修に関する質問に対して、研修医からアドバイスをいただくという形でしたが、いろいろエピソードを聞いているうちに、あっという間に時間が過ぎてしまいました。また、徳島大学の専門医研修についての紹介を行っています。どの診療科からも熱心なメッセージが寄せられています。関連病院一覧も載せておりますので、ご興味のある方は、各診療科か卒業臨床研修センターへご連絡ください。今回の発行に際し、各方面からのご協力いただいたことを、お礼申し上げます。また、ご意見やご要望等がありましたら、ぜひお聞かせ下さい。(Y)

■ ニュースレターに関する御意見・ご要望など、お気軽にお寄せください。
bsotsugo@jim.tokushima-u.ac.jp

徳島大学病院
Tokushima University Hospital
徳島大学病院卒業臨床研修センター
Tel: 088-633-9359または9376
Fax: 088-633-9358
E-mail: bsotsugo@jim.tokushima-u.ac.jp

Tokushima University Hospital
News Letter
徳島大学病院ニュースレター 2008 AUTUMN 発行: 徳島大学病院
No.08



医学生×研修医 座談会 先輩研修医に聞く!!

卒後研修の研修先はどのようにして決めたのか?
高島: 僕は3病院連携プログラムで希望を出しているのですが、研修先を決める決め手は何でしたか?
清水: 僕は6年の医学研修(学外実習)で徳大と県立中央病院に行きました。そこで大学病院と市中病院のそれぞれの特徴が分かったのですが、大学病院はカンファレンスが充実していて、先生もたくさんいらつしゃったので1年目に勉強するには良いと思いましたね。

徳島大学病院 医員奮闘記

「大学研修の日々」
初期研修を終えてから早いもので、5ヶ月が過ぎようとしています。私は初期研修に徳島大学病院管理プログラムを選択し、1年目は徳島県立中央病院、2年目は徳島大学病院で研修しました。そして、この春からは徳島大学病院・皮膚科学教室にお世話になり、未熟ながらも教授をはじめ、多くの先生方の指導のもとで日常診療に励む毎日です。どの科に進むのか、どの病院で研修をするのか、全く悩みなく選択する方もいると思いますが、私は最後までいろいろと頭を悩ませました。ですが、今は皮膚科という選択肢を選んでよかったと思っています。専門医研修で、大学病院を選んでよかった点は、多くの専門の先生方がおられ、様々な観点からのアドバイスを受けることができる点。それに加え、じっくりと一人の患者さんと向き合う時間を持つ点かと私は感じています。まだまだ勉強不足を痛感させられる毎日ですが、皮膚科の先生方をはじめ他科の先生方の指導のもとで研修できる恵まれた環境に、今はとても感謝しています。また専門医研修先を決められていない方は、是非ひとつの選択肢として考えていただければと思います。/ 医員(卒後3年目) 皮膚科 井上津津子



「やる気を生かせる環境です！」
私が所属しているのは呼吸器・膠原病内科です。肺がん、肺炎、アレルギー、膠原病、感染症等、全身疾患を診る部門です。患者さんをホスピス病院へ紹介したり、永眠されるまで当院で診療することもあります。回復して外来受診・自宅加療の道へつなげることができた時は感激に堪えません。最近、初めて聞く病名の方の主治医になりました。製薬会社の学術の方にも来て頂き、「Up To Date」(電子テキスト)や、電子ジャーナルも利用しました。その結果、有効な治療薬を導入することができ、外来治療が可能になりました。治療開始までの準備に時間と手間がかかり、いろんな方の力を借りた症例でした。大学病院では、このような症例と向き合い、そしていろんな方面からの知識を得ることもできます。後期研修でも、身近に相談でき、的確でできる環境下に自らを置いてみるのはいかがでしょうか。やりがいのある仕事、同僚、先輩と共に待っています。/ 医員(卒後3年目) 呼吸器・膠原病内科 阿部秀一

平成21年度 徳島大学病院 卒後臨床研修プログラム

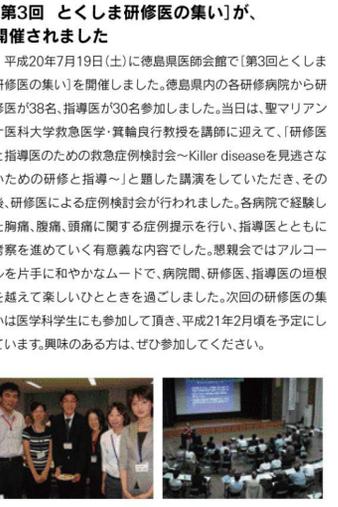
- パターン1** 3病院連携プログラム(定員24名)
徳島大学病院、徳島県立中央病院、徳島市民病院の3病院で研修が行えるプログラムです。
- パターン2** AWA-Bon Voyageプログラム(定員3名)
基本研修に加えて、4つの重点コース(内科重点、救急・外科重点、小児外科重点、プライマリ・ケア)のうち一つを選択して、研修することが可能です。
- パターン3** AWA-Rainbowプログラム(定員6名)
徳島大学病院と協力病院とのたすきかけ研修プログラムです。
- パターン4** (特別コース)内科コース(定員2名)
内科を1年間重点的に研修し、将来内科医として活躍するための基本的臨床能力を効率的に習得するプログラムです。

徳島大学は、平成21年度から厚生労働省の臨床研修プログラムに関するモデル事業に参加します!
卒業臨床研修が必修化され、今年で5年目となりました。臨床研修制度だけが医療崩壊を招いたかのように報道されることもありますが、その功罪についての見直しも進められています。このたび、厚生労働省より内科、外科、救急、小児科、産婦人科などの着しく医師不足を生じ地域医療に影響している診療科を重点的に研修を行うモデル事業が大学病院において実施されることになりました。徳島大学では、モデル事業において行う特別コースとして、これまでに用意していたパターン1～3までの3コースに加え、下記のパターン4～6までの3コースを作成することになりました。徳島大学病院管理型プログラム全体の募集定員数(40名)は変わりませんので、下記のように入員数を変更しています(■文字が変更された定員数です)。お問い合わせは、卒業臨床研修センターまでどうぞ。

- パターン5** (特別コース)救急コース(定員3名)
日常診療で頻繁に遭遇する救急疾患や病態急変に対する適切な診断・検査・治療方針の決定や技能の習得を可能としたプログラムです。
- パターン6** (特別コース)産婦人科コース(定員2名)
将来産婦人科医を目指す研修医を対象に、1年間産婦人科に特化して産婦人科医療の基本的事項を研修できるプログラムです。



【第3回 とくしま研修医の集い】が、開催されました
平成20年7月19日(土)に徳島県医師会館で[第3回とくしま研修医の集い]を開催しました。徳島県内の各研修病院から研修医が38名、指導医が30名参加しました。当日は、聖マリアンナ医科大学救急医学・箕輪良行教授を講師に迎えて、「研修医と指導医のための救急症例検討会～Killer diseaseを見過ごさないための研修と指導～」と題した講演をしていただき、その後、研修医による症例検討会が行われました。各病院で経験した胸痛、腹痛、頭痛に関する症例提示を行い、指導医とともに考察を進めていく有意義な内容でした。懇親会ではアルコールを片手に和やかなムードで、病院間、研修医、指導医の垣根を越えて楽しいひとときを過ごしました。次回の研修医の集いは医学科学生にも参加して頂き、平成21年2月頃を予定しています。興味のある方は、ぜひ参加してください。



医師不足対策として医学部の定員増、そして福田内閣の2009年度概算要求「五つの安心プラン」の中にも勤務医の待遇改善、へき地医療、救急医療、産科医療、女性医師・看護婦に対する各種手当による支援が発表されています。しかしながら「医療崩壊」がはじまっているこの日本における医療の建て直しにこれらの対策がすぐに効果を現し、日本の医療が立ち直ると思えません。

一方、2年間の臨床研修の見直しの検討もやっと本格的に行われようとしています。研修科目も含め研修期間等もあらためて根本的に議論されるということです。臨床研修を本当に有意義なものとして将来自分が選ぶ臨床医・医学研究者のキャリアパスとしてどう生かすか、研修医の皆様は経験を踏まえて研修医の声としてこの臨床研修の見直しの委員会(「安心と希望の医療確保ビジョン」具体化検討会)に届ける必要があります。(2008年秋)

病院長 香川 征
徳島大学病院で8月13日(水)に阿波踊りが開催されました。



- 柴田 真紀**
(しばた まき)
研修医2年目・産婦人科研修中
- 清水 元気**
(しみず げんき)
研修医1年目・内科研修中
- 外瀬 千智**
(とよの ちさと)
医学科6年生
- 山中 千尋**
(やまなか ちひろ)
研修医2年目・眼科研修中
- 高島 啓**
(たかしま あきら)
医学科6年生

「卒後臨床研修センター」を活用しよう…学生から研修医まで、卒後臨床研修に係わる様々な活動を行っています。医学生の進路相談なども行っており、研修医や専任の先生から話を聞くこともできるのでいつでも利用して下さい。

診療科	
内科	
徳島大学内科には、内分泌・代謝内科、血液内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器・膠原病内科、神経内科、腎臓内科の7つの小診療科があります。内科の後期臨床研修プログラムは初期研修2年間で体得した知識・診療技能を更に深め専門内科医へとステップアップし、それぞれが労働市場での価値を高めるように企画されています。	
後期研修システムとしては、7つの内科各診療科より選択した特定の専門領域を2年間専門研修するコースと、プライマリケア志向の総合内科診療研修コース(3ヶ月単位で複数の内科小診療科のローテーション)を用意しています。臨床研究に興味ある方は大学院に進学し同時に専門医資格取得も可能です。つまり専門医志望者にも総合内科医志望者にも、また研究志向者にも無駄なく対応できる柔軟な研修システムとなっております。指導医側も臨床研修指導医養成講習会に積極的に参加するなどレベルアップ・アップデートに努めています。	
連絡先	松本俊夫 toshimat@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7120 fax.088-633-7121

血液内科 (科長 安倍正博)	
血液内科では、造血障害、造血器腫瘍や免疫不全を中心とした血液・免疫疾患に対し、化学療法、輸血療法、感染症治療、同種造血幹細胞移植術など幅広く診療を展開しております。このような治療の遂行においては、全身の管理が最も重要です。このため当初は全人的、総合的、かつ専門的診療のできるバランスのとれた医師の育成を目指しています。	
	
連絡先	安倍正博 masabe@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7120 fax.088-633-7121

循環器内科 (科長 佐田政隆)	
2008年4月にヘルスバイオサイエンス研究部循環器内科で今学で分野の初代教授として佐田政隆教授が着任し、診療面においても学で以上の内容充実を目指しています。循環器内科の関与する領域はプライマリケアから非侵襲的画像検査、カテーテル治療などの専門・高度医療、更には臨床研究など非常に幅が広く、基礎技能の習得はもちろんのこと、各自の将来設計に配慮した研修が可能です。	
	
連絡先	佐田政隆 sata@clin.med.tokushima-u.ac.jp 岩瀬俊(卒後研修主任)tiwase@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7851 fax.088-633-7894

神経内科 (科長 楢龍児)	
かつては「わからない・なおらない」と揶揄された時代もあったらしいですが、時代はダイナミックに変わっております。頭の先から指の先までの神経の症状、神経難病、脳卒中(SCU)から日常遭遇する一般的な症状(頭痛・物忘れ・手足のしびれ感)に至るまで「治る神経内科」を実践しております。ストレートな専門医試験合格にも定評があります。国内・海外への留学実績も豊富です。	
	
連絡先	和泉唯信 yizumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp 浅沼光太郎 dolcevita@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7207 fax.088-633-7208

皮膚科 (科長 荒瀬誠治)	
皮膚科は現在、後期研修医を含む14人で毎日平均70人の外来患者、16人の入院患者を診られています。教育・研究も行っています。過去10年間の新入医員は年平均2人です。後期研修の目標は、1).実学としての皮膚科学の習熟、2).皮膚科専門医取得、3).できれば研究です。全て卒業後が勝負で、体力、気力をもち、他人と話ができさえすれば男・女性に向いています。また研究に興味を示して欲しいです。いずれにせよ、皮膚科を選んだことを後悔する事はないですよ。 一我歓迎若者入局ー	
	
連絡先	荒瀬誠治 sarase@clin.med.tokushima-u.ac.jp 山本忠正(医局総務)chusei2@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7154 fax.088-632-0434

産科婦人科 (科長 吉原稔)	
現在医局員は、吉原 稔教授をはじめとして、21名。診療面では不妊診療、腫瘍診療、周産期診療、女性医学診療(更年期障害、高血圧症、乳癌検診)の4診療部門があり、どの部門もトップレベルの成績です。また、分娩数は年間520件、手術件数は400件。研究面では6つの研究班に分かれて、基礎的及び臨床的研究を行っています。教育面ではカリキュラムを組み、学生、初期研修医の指導も行っています。女性医学に興味のある人は是非連絡下さい。	
	
連絡先	吉原 稔 irahara@clin.med.tokushima-u.ac.jp 前田和寿 maeda@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7177 fax.088-631-2630

精神科神経科/心身症科 (科長 大森哲郎)	
今、精神科医が求められています。精神科の敷居が低くなり受診が増え続ける現状に加え、教育や行政からのニーズも激増しております。精神科は非常に守備範囲の広い診療科です。自分のライフスタイルや興味に合わせて方向性を選択することができます。指導体制の充実には自信があります。精神科医になるなら徳大精神科での研修を!	
	
連絡先	大森哲郎、住谷さつき satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7130 fax.088-633-7131

内分泌・代謝内科 (科長 松本俊夫)	
ホルモンは全身臓器の機能調節に関わり、生体のホメオスタシスの維持に必須です。このため内分泌異常症は多彩な全身状態を呈します。代謝異常症には糖尿病や脂質異常症、痛風、骨粗鬆症などの生活習慣病が多く、全身を診る臨床医としてその理解は不可欠です。また近年のメタボリックシンドロームへの注目の高まりに対応すべく、当科が中心となって全国に先駆けて検診システムを病院内に構築し、稼働中です。日常診療やメタボリックシンドローム検診を通して、最終的には動脈硬化症を含む心血管病の予防を、循環器内科とも連携して進めています。	
	
連絡先	松本俊夫 toshimat@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7120 fax.088-633-7121

消化器内科 (科長 高山哲治)	
消化器内科では2007年12月より高山哲治教授が着任され、若い医師を中心に新体制で消化器疾患の診断と治療を積極的に進めています。内視鏡治療では、早期胃癌、食道癌、大腸癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)を積極的に行うとともに、消化器癌に対する薬物療法では、新しい抗癌剤や分子標的治療薬を組み合わせた最新の治療を行っています。また、肝炎、肝硬変、肝臓などの肝疾患に対する治療も積極的に、肝臓に対するラジオ波焼灼術や高度なインターベンション治療を多数行っています。当科では、優れた研修システムを採用し、専門医や指導医と研修医が一体となって、最善の医療を提供しております。	
	
連絡先	岡久穂也 okahisa@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7124fax.088-633-9235

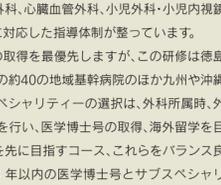
呼吸器・膠原病内科 (科長 曾根三郎)	
肺炎、肺がんに代表される呼吸器疾患、気管支喘息、リウマチ・膠原病疾患を中心に専門医・指導医のもとにチームワーク医療を推進しています。また、呼吸器疾患の診療だけでなく全身性の自己免疫疾患患者にも適切な治療ができる専門医の育成を目指しています。特に診断法として、胸部画像読影、気管支鏡診断技術の向上に力を注ぎ、肺がん、ひまん性肺疾患などの診断法が身に付きます。入院から外来での抗がん剤、分子標的薬を用いた肺がん治療、緩和療法が学べる他、膠原病・リウマチ疾患のステロイド剤、免疫抑制剤、生物学的製剤の適正使用を数多く経験できます。また常時、外国人医師を受け入れ海外留学を行うなど指導的な医師へのインキューションにも力を注いでいます。	
	
連絡先	吾妻雅彦 mazuma@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7127 fax.088-633-2134

腎臓内科 (科長 土井俊夫)	
腎臓内科では、異下門から難治性の腎疾患患者を受け入れています。腎臓内科の診療活動は、ネフローゼ症候群・腎炎などの腎疾患の診断治療と慢性腎不全期の透析導入の2つの柱からなっています。糖尿病など全身性疾患からの腎障害も多く、広く内科全般に渡る研修をしていただきます。当科での取得可能専門医:内科専門医・腎臓専門医・透析専門医	
	
連絡先	土井俊夫 doi@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7184 tel.088-633-9245

放射線科 (科長 西谷 弘)	
放射線科では画像診断(CT、MRI、核医学、超音波、消化管透視)、IVR(血管内治療)、放射線治療に従事しています。現代の医療において画像診断は必要不可欠な存在であり、IVRや放射線治療は低侵襲治療の代表として臨床において重要な役割を果たしています。全国トップクラスの検査装置、治療機器に恵まれた環境のもと、最先端の医療に携わってみたいですか。また、家庭を持った女性医師でも働きやすい環境作りにも努めており、そのような女性医師の入局も大歓迎です。	
	
連絡先	古谷俊介 shun@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7173(内線6084) fax.088-633-7174

小児科 (科長 香美祥二)	
「将来我が国を支える子ども達の健康を守ること、一般小児科臨床のしつかりとした基盤を身につけた上で更に専門分野での能力を養うこと」を目標に、小児科は医局員一同、切磋琢磨しています。香美祥二教授のもと、伝統を守りつつも新しいことに挑戦する姿勢で、日々診療に研究に努力しています。子ども達のために21世紀の小児医療を背負う若手医師の入局を、心からお待ちしております!!	
	
連絡先	森 健治 moriken@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7135 fax.088-631-8697

病理部 (部長 坂東良美)	
病理部は、病理・細胞診断を行うことにより、院内で実施される医療行為にEvidenceを与える仕事を担っています。全国的に病理専門医数は絶対的に不足しており、専門医取得後の勤務先探しに苦労はしません。また、病理診断科が標榜科として認められ「開業病理医」という事業形態をとることも可能になりました。医療界全体が病理医の育成、獲得に必要となる時代が目前に到来しつつあります。研修にあたっては、各人の事情(婚姻、子供の有無、勤務時間等)を考慮し、弾力的に対応します。若き人材の参入を心からお待ちしております。	
	
連絡先	坂東良美 yoshimi@basic.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7454 fax.088-633-9565

外科	
徳島大学病院外科は消化器・移植外科、呼吸器外科、食道・乳腺甲状腺外科、心臓血管外科、小児外科・小児内視鏡外科から構成され、各科の専門医が協力し、臨床研修制度や専門医制度に対応した指導体制が整っています。卒後2年間の臨床研修の後、徳島大学外科に所属し、まず外科専門医の取得を最優先しますが、この研修は徳島大学病院から始めることも関連施設から始めることも可能です。四国内の約40の地域基幹病院のほか九州や沖縄にも関連施設があり、十分な外科修練を受けることが可能です。サブスペシャリティーの選択は、外科所属時、外科専門医取得後いずれの時期でも結構です。その後は、最新の基礎研究を行い、医学博士号の取得、海外留学を目指したコース、臨床に重点を置き、サブスペシャリティー専門医の資格を先に目指すコース、これらをバランス良く平行して修練するコースなどを設定し、いずれにしても入局後約10年以内の医学博士号とサブスペシャリティー専門医取得を目指します。外科を重点的に研修したい人のための初期臨床研修プログラムも準備中です。	
	
連絡先	森根裕二 ymorine@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7139 fax.088-631-9698

呼吸器外科 (科長 先山正二)	
当科は、肺癌、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍などの腫瘍性疾患を中心として、ロート胸、肺胸、気胸など呼吸器外科疾患全般に関して診療を行っています。手術のみならず、早期肺門部肺癌に対する光線力学方法や気道狭窄に対するステント、レーザー治療なども積極的に行っています。外科におけるサブスペシャリティーとしての呼吸器外科専門医取得のための充実した修練プログラムを用意しています。外科・呼吸器外科に興味ある若人よ、来たれ!	
	
連絡先	先山正二 sakiyama@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7143 fax.088-633-7144

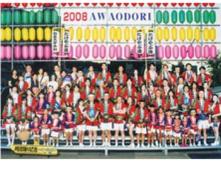
心臓血管外科 (科長 北川哲也)	
心臓血管外科医は、“自分の知と誠”をもって、病む患者さんの生きようとする力を支えてあげることのできる、やりがいのある仕事です。暖かい心と勇氣を持ち、夢と情熱のある方は、当科で専門医研修をしませんか。君たちの思いに応えます。現代の社会環境でこそチャンスです。“Chance favors only the prepared mind !!”次代を担うのはあなたです。	
	
連絡先	北市隆 kitaichi@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7152fax.088-633-7408

泌尿器科 (科長 金山博臣)	
泌尿器科は泌尿器科専門医、透析専門医、腹腔鏡技術認定医の習得を目指した教育研修体制をとっています。関連病院のほとんどが、泌尿器科研修医制度の基幹病院かつ透析の認定施設、教育関連施設で、症例も多く充実した研修が受けられます。特に専門医を習得するまでは、主要手術件数の多い基幹教育施設での研修を原則としています。また、希望に応じて大学院進学、国内および海外留学も可能です。	
	
連絡先	福森知治 fukumori@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7159 fax.088-633-7160

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (科長 武田憲昭)	
現代の耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、頭頸部の感覚運動医学、機能再建外科、頭頸部腫瘍外科を担当する科です。徳島大学耳鼻咽喉科では、耳鼻咽喉科の全ての担当範囲において国際トップレベルの医療を導入し、明るく楽しく積極的に、個性を尊重して個性を伸ばし、世界一の耳鼻咽喉科をめざしています。徳大耳鼻科で頭頸部のスペシャリストを目指しませんか?	
	
連絡先	阿部晃治 kabe@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7169 fax.088-633-7170

脳神経外科 (科長 永廣信治)	
脳神経外科疾患には、救急医療から慢性疾患まで幅広く対応します。脳血管障害、神経外傷は救急医療の多くの部分を占めており、救急医療の習得が可能です。徳島大学脳神経外科の後期研修プログラムでは脳神経外科疾患を全般的に経験することが可能であり、到達目標を明確に定めており、有意義な研修ができます。後期研修終了後は、豊富な疾患レテゴリーの中から、自分の興味や特性に合った専門分野を選択することができます。	
	
連絡先	松崎和仁 kazuhiro@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7149 (内線3246) fax.088-632-9464

麻酔科 (科長 大下修徳)	
初期研修プログラムではどの科に進んでも必要な呼吸循環管理ができることを目標としています。特に、気管挿管が自信を持ってできることを最低目標としています。後期研修プログラムでは大学と関連病院で「ロテーション」することあらゆる症例や状態に対応できる麻酔科医を育成し、また麻酔科関連の研究で世界に貢献できる教室を目標としています。	
	
連絡先	田中亮哉 katsuya@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7181 fax.088-633-7182

消化器・移植外科 (科長 島田光生)	
[拡大切除・機能喪失から低侵襲・再生外科へ]をスローガンに、肝臓腫瘍領域では癌に対する高難度手術、化学・放射線療法を併用した集学的治療の他、非代償性肝硬変や劇症肝炎、肝臓癌に対する肝移植を行っており、肝臓外科高度技能修練施設Aに徳島で唯一認定されています。また消化管悪性腫瘍に対しては、PET-CTや拡散強調MRIなど新しい画像診断や化学療法を導入し、胃癌の約4割、大腸癌では約9割の鏡視下手術を積極的に進めています。さらに鏡視下アンモラポを含む後期研修プログラムも希望に合わせ用意しています。詳しくはHP (http://www.tokugeka.com/)をご覧ください。	
	
連絡先	森根裕二 ymorine@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7139 fax.088-631-9698

食道・乳腺甲状腺外科 (科長 丹黒 章)	
安心できる最先端医療を提供することがわれわれの使命と考えています。新しい診断・治療技術の開発と癌に対する低侵襲治療の研究に日夜研鑽を重ね、全身の診れる外科医、癌治療医を目指す情熱と希望にあふれる皆さんに充実した研修と研究の場を提供します。詳しくはホームページ(http://www.tksbizan.com/)をご覧ください。	
	
連絡先	先山正二 sakiyama@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7143 fax.088-633-7144

小児外科・小児内視鏡外科 (科長 高原裕夫)	
1) 小児外科の広範な疾患に対する治療:四国の小児外科の中心的施設として、胸部、腹部をはじめ小児悪性腫瘍および、泌尿器科領域まで広範な疾患をカバーしています。2) 小児外科領域での鏡視下手術:独自に開発した小児単径ヘルニアに対するLPEC法を710件施行した他、ヒルシュブレック病、鎖肛、先天性腸閉塞などを含む新生児外科疾患に対し、鏡視下手術を積極的に行っています。	
	
連絡先	高原裕夫 takehara@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7137 fax.088-631-9698

眼科 (科長 堀田洋)	
堀田教授は徳大型人工角膜を開発し、国際同部門の Steering Committee です。内藤准教授は内藤式と呼ばれる器具を考案し、硝子体手術の専門家として活躍中です。江口講師はAlphaCor(人工角膜)のライセンスを取得し、日本で唯一この手術をしています。レベルの高い医師になりたい方、留学や国際医療協力に加わりたい方、私達の眼科へ来て下さい。	
	
連絡先	四宮加音 shinomi@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7163 fax.088-631-4848

整形外科 (科長 安井夏生)	
整形外科は骨や筋肉・関節・神経など運動器を幅広く扱う診療科です。骨大工的な要素は多分ありますが、骨は生き物であるところが大工さんとは異なります。整形外科は守備範囲が広く、なかなか一人にならない一方で、誰でも努力すれば一流になりえるところが魅力です。徳島から世界にはばたく骨大工になりませんか。	
	
連絡先	安井夏生 nyasui@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7240 fax.088-633-0178

形成外科・美容外科 (科長 中西秀徳)	
当科での専門医研修には、形成外科専門医を習得するための専門医前研修(4~6年間)と、その後の専門分野の強化研修があります。初めの1年間は大学病院で形成外科基礎研修を行い、関連病院での臨床研修に移ります。当科からは四国四県の公立病院(高知赤十字病院、松山赤十字病院、高知医療センター、徳島県立中央病院、香川小児病院など)で臨床研修を受けることが可能です。大学院博士課程への入学や専門医習得後の海外・国内留学のチャンスもあります。	
	
連絡先	橋本一郎 ihplast@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7296 tel.088-633-7297

救急集中治療部 (部長 西村匡司)	
集中治療医、救急医は、あらゆる疾患に対応できる知識、診断能力、技術が必要です。このような技量を持つ専門医、専従医がいることで急性期医療の質が維持できます。重症患者の予後は専門医、専従医が治療方針を決定することで有意に改善することが知られています。当救急集中治療部においてclosed policyを導入して以降、治療成績が著明に向上しており、どの施設にも負けないレベルです。集中治療や救急医療を専門にし、病院の医療レベルを支える仕事をしたいと考えている先生方の入局を歓迎します。	
	
連絡先	今中秀光 imanakah@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-9347 fax.088-633-9339